

## 自分の思いを作品に

家具などの設計開発を行っている会社に今年から勤めておられる車椅子の女性、井内ちひろさんをご紹介します。

井内ちひろさん。27才。先天性の骨形成不全症で車椅子の生活をしている。小学校、中学校は病院に隣接する神戸の養護学校、高校は兵庫県竜野市の養護学校を卒業し、その後、日本福祉大学に入学。87年卒業後、交通アクセスを求める活動をしているグループ、TRYに参加。そのころ兵庫県加古川市で住宅地図作成や、家庭教師のアルバイトをしていた。89年秋に車いす市民全国集会在兵庫県西宮市で行われ、その後有料介助サービスなど、幅広い活動を行うメインストリーム協会が発足、設立から関わることになり、それを機に加古川の実家から一人で西宮に引っ越した。

井内さんは日本リハビリテーション協会が主催するプログラムのミスタードーナツ奨学生として90年9月から91年3月までカリフォルニア州バークレイに研修留学。目的はメインストリーム協会のこれからの活動に具体的なイメージをもつためだった。英語は苦手だったが、持ち前の頑張りでも審査に合格。主にはCIL（自立生活センター）について学んだが、それ以外にも移動問題、ADA（障害を持つアメリカ国民法）についても研修した。アメリカ社会を手放しでいいとは思わなかったが、移動の自由の素晴らしさを実体験で感じるなど多くのことを学んだ。研修の合間には美術館や映画館へ好んでよく通ったが、帰国後、周囲からの障害者リーダーとしての期待と責任の重さを強く感じていく中で、ますます絵画などの芸術や自然が自分にとって必要不可欠なものであることを実感していく。

そんな想いで仕事を探していた頃、イーテックとの巡り合わせがあり、新しい自分を見つけるチャンスだと感じ、就職することを決めた。イーテックは、それまでは男性ばかりの会社で、女性の発想を求めており、障害を持つ方ならより使う人に優しい発想を持っていると考え、積極的に障害を持つ人を探していた。



今年の4月からの正式雇用で、仕事の内容は、主におもちゃ、インテリア小物のデザインである。通勤は週3日、勤務時間は10時から6時半まで。給料は手取りで月約12万円。

会社が生活費を考慮してくれて、この額が決まった。厚生年金、社会保険、休暇など、

その他の待遇は、他の社員と同じ条件である。

以下はちひろさんからのホットなコメントです。

自分の中で強く叫ぶものがあれば、人はそれとどこかで出会えるようになっているのでしょうか。木などの自然や絵画などの芸術が私にとってどんなに大切なものであるかということを感じていた頃のイーテックとの巡り合わせ、そのタイミングの良さといったら、本当に不思議なほどです。

木を中心とした自然素材で、人にやさしい生活空間を創っていこうというのがイーテックの目指す仕事であること、与えられた仕事をこなすというのではなく、デザイン・設計から製造、販売まで社員の自主性や自己管理が基本としてあること、だから勤務体制や賃金などは自分で決めること — これらのことを私は面接の時に聞き、何かとても自由で、厳しくて、居心地のいいものを感じて、「やりたい」とひとこと言ったのです。絵を描くのが好きならやれるでしょうということで、特別何も試されることなく採用となりました。

現在、主には子どもが手にずるおもちゃやインテリア小物のデザインをしたり、小さいものなら糸ノコで切り抜き、ペーパーで磨いて仕上げるところまでしています。生み出す苦しみとつくりだすおもしろさを味わっています。自分の中の“感覚”を活かしたいという気持ちはあったのですが、今まで、正しい正しくないという判断での仕事が多かった私にとっては、“感覚”という確かな根拠のないものを売るといことがとても不思議で不安に思えたりもします。私自身、視覚表現が好きなので、小さなものでも見るだけでホッしたり、思わず微笑んでしまったりするようなものをつくってあげたいと思いますし、また、それぞれの人の身体にあった心地いいインテリアを考えていきたいと思っています。

(ちなみに、只今メインストリーム協会の事務所の家具を造っているところです)

〈手製のリフト〉





＜工作中的井内さん＞

私以外に男性が二人いるのですが、二人とも個性的で、時には冗談を言いながら、時にはまるで少年が無心に大きなプラモデルを組み立てるように懸命に、楽しく仕事をしています。5カ月経って、私もだんだんなじんできました。初めは、二人と同じように働かなければと気負ってしまったり、自分のポジションがわからなくて不安に思ったりしてましたけれど、結局はできることをできる範囲でするしかないわけですから、ムリすることを美德だと考えずに、自分にできることを大事に育てていこうと思っています。特に近頃、少し身体をこわしたので、プライベートでもやりたいことがたくさん出てくるのはいいけれど、優先順位を決めてひとつひとつじっくりやっ

ていかなあかな、と自戒しています。それはとても我慢と注意力のいることだけれど。

私の場合は、リフトとトイレの改造を当然の「必要な配慮」としてしてもらい、自分の力を最大限発揮できるステージと私のもつ能力を過大にも過小にも評価しない対等な人間関係があり、とても仕事のしやすい環境に恵まれました。でもこういうケースはまだまだ稀だと思うし、雇用主や他の職員と、雇用される障害者の互いの要求や気遣いの橋渡し役、調整役として、アメリカの援助付き雇用のジョブ・コーチのような存在がいた方がよりスムーズに障害者の一般企業での統合が進んでいくだろうなという風に考えています。

---

## 会社紹介 「E-TECH (有)」

“人に優しく暖かい” この言葉を心情とし、照明器具・家具・遊具を設計開発しております。特に木製品に付いては、使用される方々の立場に立って、一品作りをモットーとしており、人間の情緒及び物理的な面を追究しております。

<私共が何故、障害者の方を受け入れようと考えたのか。>

発想とは、個人個人の立場やその時の状況により変化していきます。私共は、高齢者及び障害を持つ人々の生活に関連する家具・インテリアの開発を行ってまいりました。

しかし本当の立場という所からは、実際の経験を持っている新しい見地から、発想・開発すべきであると思ひ障害者の方の受け入れを考えたいわけでありませぬ。

<井内さんがイーテックに入社されて>

これまで私共は男性ばかりで活動を続けてまいりました。発想や企画・開発は、製品を作っていく上で一番重要な部分であり、且つ様々な角度から見つめていかなければなりません。

そこで以前より私共は女性からの発想や意見にも注目してまいりました。と、同時にイーテックが一番ほしかったものでもありました。井内さんが入社されて、3ヶ月余りが過ぎようとしておりますが、彼女が発想するものデザインとして描くもの全て以前までのイーテックにはなかったものです。彼女は、探究心が旺盛でいつもなぜ・どうして、という気持ちで心を持ってお仕事されておられるようで彼女が担当されている古代絵製自動車（乳幼児用玩具）・積木ドミノや記念贈答品などは、その彼女自身の探究心のかたまりと申し上げても過言ではありません。最近では私共が作った自家製昇降リフトも頻繁に愛用して頂いており、1階工場と2階事務所の往復にと忙しい日々を送っておられます。今後彼女はミシンのこぎりや、ボール盤（木に穴開け加工をする機械）などの機械を巧みに操って自分で描いたデザインを製品として形にしたいようです。

最後に私共もこれから彼女の発想や感性を玩具だけでなく家具やインテリアなど多方面で伸ばすことのできる環境を作りたいと思っております。“小さなスーパーレディー”に負けぬよう努力してまいります。

**E-TECH (有) 概要**

設立：平成2年2月

資本金：300万

所在地：伊丹市下河原字北原274

代表者：海老原達雄 社員：3名

